

廃炉・汚染水対策チーム会合 第75回事務局会議(書面開催) 議事概要(案)

日 時: 2020年2月27日(木)

場 所: 書面開催

参加メンバー:

浅間教授(東大)、岡本教授(東大)、小山首席研究員(電中研)、  
須藤対策監、光成審議官、新川審議官、土屋室長、木野参事官(資工庁)、規制庁、文科省、  
厚労省、農水省、山名理事長(NDF)、JAEA、東芝、日立、三菱重工、IRID、産総研、  
電中研、東電 他

議 事:

事務局より、各参加メンバーに対し、書面にて意見照会を実施。参加メンバーから提出された意見は別紙の通り

以 上

大谷吉邦原子力損害賠償・廃炉等支援機構理事から頂いたご意見

○「福島第一原子力発電所における顔面汚染に係る今後の対応について」に対する意見

- 顔面による内部被ばくが短期間で2件続いている事態には危機感を持って対応することが必要。預託線量が記録レベル以下であったことは幸いだが、特にプロセス主建屋での事象は、これまでのサンプリング結果で滞留水に有意にα核種が検出されていた所でのものであり、仮にαの内部被ばくがあれば桁違いの結果となることが危惧されるところ。決して内部被ばくを起こさないという強い覚悟を東電社員、協力企業の作業員全員が共有することが大事。放管部門の強い関与が必要。
- 顔面汚染の原因は、それぞれマスク面体の汚染から、また、装備の装着方法の不良により汚染した下着から、全面マスクを外す際に伝搬したと推定されている。小生の経験からは、全面マスク(半面マスクでも同様)を外す際には、マスク面体及び衣服(カバーオールまたは下着)に汚染がないことの確認がなされない限り、マスクを外さないことが鉄則と理解している。仮にここで汚染が確認された場合は、汚染部をテープで固定する、衣服であれば汚染部を切り取る等の処置を施し、汚染が拡散しない状態にしてからマスクを外す対応を行っている。提示された対策で、Rゾーンからの退域時のマスクの拭き取りやマスク表面のスミヤ測定は一定の効果が期待できると考えるが、万一衣服まで汚染が達していた場合への防御が十分でないのではないかと。1Fの現場では、至る所に線源があり、放射線レベルが高いので、本来実施すべきサーベイメータによるマスクや衣服の直接サーベイが困難なことは理解できるが、いろいろな工夫で脱装時の汚染コントロールの原則に出来るだけ近づけた対応ができるよう対策することを望む。αに対しては直接サーベイが可能なので、そのような対策を既に行っているかもしれないが、βに対しても比較的バックグラウンドの低い測定環境を用意することも必要になるのではないかと。
- JAEAでは、ダストの付着が予想されるような場所での全面マスク作業では、マスクカバーを装着して行っている。マスクカバーはマスク全体(頭部全体)を覆う透明の袋状のもので、マスクのフィルタ部分のみが露出するようになっており、面体の汚染を防ぐとともに、作業区域を出る際に脱装することで汚染の持ち出しを防ぐ。参考になるのではないかと。

以上